

1. 科目名 (単位数)	保育児童基礎演習 (2単位)	3. 科目番号	
2. 授業担当教員	荒木 由紀子		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	他の保育内容と同時期に学ぶまたは、保育実習前に学ぶことが望ましい。		
7. 講義概要	<p>保育士資格取得に際して必修となる保育実習を見据え、保育実習 I 直前に開講される「保育実習指導 I」に先立っておこなわれる実習事前基礎学習を目的とする。実習生としての基本的な心構えやマナー、および基礎知識について具体的に学べるようにする。</p> <p>2年次秋学期実施の保育所実習、3年次春学期実施の施設実習に備え、実習概要の理解、実習日誌記録上の注意点や保育実技の習得ができるよう講義と演習を行う。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習生としての心構えを体得する。</li> <li>2. 保育実習の基本的知識や実習の概要を理解し、説明することができる。</li> <li>3. 保育実習 I に備え、保育所実習、施設実習の意義や実習園の概要などを調べ学習し説明することができる。</li> <li>4. 保育教材を作成し、教材を活用して環境構成の意味を習得する。</li> <li>5. 基本的な保育技術(手遊び・読み聞かせなど)の習得および教材製作について学び実践することができる。</li> </ol>		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習にあたっての心構えについてのレポート</li> <li>2. 実習記録の作成の練習課題</li> <li>3. 保育技術・教材作成 (年齢に応じたおもちゃ作り) 課題</li> <li>4. 学修の定着を図るため小テストを随時実施する。</li> <li>5. 最後に授業資料のファイル提出を求める。</li> </ol>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>教科書 「自分をいかす保育実習ハンドブック」関口はつ江編著 大学図書出版 2022年</p> <p>参考書 「これからの時代の保育者養成・実習ガイド」大豆生田編著 中央法規 2023年第4刷</p> <p>「保育所保育指針」厚生労働省 「保育実習の手引」東京福祉大学</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習生としての心構えを体得できるか。</li> <li>2. 保育実習の基本的知識や実習の概要を理解し、説明することができるか。</li> <li>3. 基本的な保育技術(手遊び・読み聞かせなど)の習得および教材製作について学び、実践することができるか。</li> </ol> <p>○評定の方法</p> <p>個別の授業態度、グループ活動への取り組み、提出物及びレポートを総合して評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業態度及びグループ活動への取り組み 60%</li> <li>2. 各提出物 40%</li> </ol>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>実習を受け入れてくださる施設・先生方に感謝の気持ちを持ちながら、子どもたちに接することが出来るように十分な心構え、自覚、専門的知識、準備が必要。子どもたちの育ちに関わる意味の重要性を意識し、子どもの年齢による発達状況等の基礎知識をしっかりと学び、「年齢や月齢に」とは何かを座学で学び、実習の場でその意味を学ぶこと。年齢に応じたおもちゃ作りや幼児文化教材作りなども行う。提出物は期限を守ること。授業資料をまとめるファイルを各自準備すること。本学の規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は、単位の習得を認めない。遅延の場合は遅延証明書を当日またはメールにて提出のこと。遅刻は授業開始から15分以内とし、それ以降は欠席扱いとする。</p>		
13. オフィスアワー	授業内 (初回授業) で周知する。メールでの問い合わせは随時。yukikoaraki@ed.tokyo-fukushi.ac.jp		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	<p>ガイダンス</p> <p>—実習とはなにか</p> <p>保育実習・教育実習の概要と履修方法、実習目的など—</p> <p>DVD 視聴 保育士の仕事について —</p>	事前学習	「保育所保育指針」第1章をよく読み保育所の役割と保育士の仕事について理解する。実習生としての態度や心得について、考えをまとめる。
		事後学習	「保育士倫理綱領」中のプライバシーの保護について考えをまとめる。『保育実習の手引き』『保育実習施設について』を読み、実習先施設について理解する。
第2回	<p>保育所実習の基礎知識</p> <p>—認定こども園の基礎知識</p> <p>—DVDで学ぶ保育所、認定こども園の一日</p> <p>*キャリア支援室より実習、書類の説明等</p>	事前学習	保育所、認定こども園について、一日の生活の流れをイメージしておく。
		事後学習	保育所と認定こども園の一日の生活のながれの違いについて理解し、実習生としての心構えと留意点を整理する。
第3回	保育現場における生活場面を考えてみる①	事前学習	どんな生活場面があるのかを考え、まとめる。
		事後学習	子どもの発達に応じた場面の違いや留意点について考え、気付きをまとめる。

第4回	保育現場における生活場面を考えてみる② *キャリア支援室 各種書類の回収	事前学習	どんな生活場面があるのかを考え、まとめる。
		事後学習	子どもの発達に応じた場面の違いや留意点について考え、気づきをまとめる。
第5回	教材研究と保育技術(表現)の習得① 保育実習に先立ち自己紹介 Goods の研究と制作	事前学習	0歳～6歳までの発達過程を予習しておく。年齢に応じた自己紹介の仕方を考えておく。
		事後学習	自己紹介 Goods を仕上げる。
第6回	教材研究と保育技術(表現)の習得② (様々な表現方法を用いて年齢に応じた演じ方の研究) 自己紹介 Goods の発表	事前学習	自己紹介の練習をする。
		事後学習	教材研究ファイルに対象年齢に応じた絵本、紙芝居、おもちゃなどのリストを作成する。
第7回	教材研究と保育技術(表現)の習得③ (様々な表現方法を用いて年齢に応じた演じ方の研究) 乳児を対象に絵本、紙芝居、おもちゃなどを考える	事前学習	乳児保育をイメージし、年齢に応じた絵本や紙芝居を持参する
		事後学習	教材研究ファイルに乳児保育をイメージし、パペット、わらべうた、手遊びなどのリストを作成する。
第8回	教材研究と保育技術(表現)の習得④ (様々な表現方法を学ぶ) 季節の製作やパペットの活用、わらべうた、手遊び等	事前学習	乳児保育をイメージし、パペット、わらべうた、手遊びなど、実習で実践したいことを準備してくる。
		事後学習	教材研究ファイルに対象年齢に応じた題材リストを作成する
第9回	教材研究と保育技術(表現)の習得と発表⑤ (様々な表現方法を用いて年齢に応じた演じ方の研究) エプロンシアター、パネルシアター、手袋シアター、パペット、手遊び、ゲーム	事前学習	エプロンシアター、パネルシアター、手袋シアターについて調べる。
		事後学習	教材研究ファイルに、対象年齢と共に、エプロンシアターやパネルシアター、手袋シアター、手遊び、ゲームについて、演じる際の留意点を整理する。
第10回	教材研究と保育技術(表現)の習得⑥ (様々な表現方法を用いる) 季節の風物詩製作、様々な絵画素材の活用	事前学習	対象年齢を想定し、実習で行いたい絵画素材を持参する
		事後学習	教材研究ファイルに、対象年齢と共に様々な絵画素材を用いた表現方法等をまとめる。
第11回	乳児を対象とした教材研究(グループ活動)	事前学習	乳児保育をイメージし、発表の準備をする。
		事後学習	教材研究ファイルに乳児のための教材研究発表等をまとめる。
第12回	保育園、幼稚園の1日の流れを知る。 — DVD 視聴 — 実習日誌の書き方について① 模擬保育のグループ作り	事前学習	『保育実習学習の手引き』『実習における留意事項 2. 実習記録について』を熟読しておく。保育施設の1日の流れ、場面ごとの環境や生活について予習しておく。
		事後学習	教材研究ファイルに乳児のための教材研究発表等をまとめる。
第13回	実習日誌の書き方② グループ活動(模擬保育の計画を話し合う)	事前学習	乳児保育をイメージし、発表の準備をする。
		事後学習	互いの発表を振り返り、取り入れたいアイデアや改善点について整理する。この活動からの発展やアレンジには、どんな方法があるのかについて考える。
第14回	模擬保育② それぞれが考え、準備した内容をグループで演じ、保育場面や時間配分、導入や流れについて組み立ててみる。	事前学習	模擬保育の準備をしておく。
		事後学習	互いの発表を振り返り、取り入れたいアイデアや改善点について整理する。この活動からの発展やアレンジには、どんな方法があるのかについて考える。
第15回	模擬保育① それぞれが考え、準備した内容をグループで演じ、保育場面や時間配分、導入や流れについて組み立ててみる。 *まとめ 自己課題の整理をする	事前学習	模擬保育の準備をしておく。
		事後学習	互いの発表を振り返り、取り入れたいアイデアや改善点について整理する。この活動からの発展やアレンジには、どんな方法があるのかについて考える。自己課題を整理し、実習に向けて具体的な準備に取り掛かる。